

新林公園の藤～白旗神社の藤

白旗神社
義経藤・弁慶藤

御殿辺公園藤棚

遊行寺本堂
鐘楼付近藤棚

藤沢本町駅

御殿橋

藤沢橋

船玉神社

大正橋

堰跡橋

御所ヶ谷橋

東橋

藤沢駅

境川左岸の歩道

鎌倉道踏切

ENEOS

奥田公園

新林公園藤棚

ご案内

4月27日(水)は、ゆっくりウォーク「フジ・ロード」です。藤沢市の花は「藤」、その藤の保護・育成を支援する団体「藤倶楽部」によって引地川沿いの公園などに点在する藤を結ぶウォークコースが設定されています。

ところで、「藤沢の地名の由来」をご存じでしょうか。①藤が多い地だから ②境川・引地川など蛇行し、淵や沢が多く「淵沢」から転訛した。③鎌倉時代、藤沢次郎清親という奉行が治めていたから、などの諸説があるが②が定説となっている。(藤沢地名の会 仲摩邦夫) 藤沢にはこのロード以外にも、藤の見所があります。新林公園の藤、白旗神社の藤などがあります。最寄の駅はJR藤沢駅または小田急藤沢本町駅です。藤沢駅から歩いて見ましょう。

新林公園は藤沢駅南口下車、徒歩12分。よくウォーキングの集合場所となる奥田公園の先、奥田橋を渡り、新林小学校に隣接しています。門を入ると正面に藤棚を目にすることができます。昨年は手入れが悪く、あまり花をつけませんでした。写真は一昨年に撮影したものです。見ごろは例年、4月下旬から5月上旬です。

藤と並んでの見所は、「旧福原家長屋門」(市指定文化財)です。正面間口約15m、奥行4m、江戸時代後半の建物、福原家は市内渡内の旧家で江戸時代には名主を務めました。長屋門とは、門の両脇に部屋(長屋)を備えた建築の事で、江戸時代の末頃から、上層農家の格式を示す建物として、屋敷の入口に建てられました。(藤沢市教育委員会案内板) その裏側に「旧小池邸」(市指定文化財)があります。小池家は柄沢村の名主で、建物は天保12年(1841)に建てられたもので、昭和58年(1983)に移築復元されたものです。



福原家長屋門
福原家長屋門



古民家 小池邸
古民家小池邸

古民家の裏から、片瀬山北公園に至るハイキングコースがあります。少し上ると、左側に下りる階段があり、下ると目の前にマンション群。その先のガソリンスタンド、信号を渡り直進、道なり進むと柏尾川に架かる川名橋。鎌倉道踏切を渡り、左、線路沿い、村岡ポンプ場の横を通り境川左岸に出ます。

そこからは、大正橋まで川沿いの道を進みます。ほとんど車は通らない道です。堰跡橋の手前に奥田堰碑が立っています。碑文には「大正13年に木造堰が完成、農業用水として利用された・・・」とあります。この碑の先、自動車道を避けて、大正橋まで人っ子一人通れる道を進んでもよいでしょう。船玉神社前の道は鎌倉街道、先ほどの鎌倉道踏切を通り腰越または深澤へと続いていたそうです。

右側斜面に市内最古の「藤稻荷」があります。「この辺り御幣山といい、昔、藤の大木があり、花が咲くと辺り一帯は紫の雲がたなびくようだったといわれる」（前掲：仲摩邦夫）

遊行寺本堂脇、鐘楼付近にも藤棚があります。去年は殆ど花をつけませんでした。今年はどうでしょうか。いろは坂を下り、赤橋を渡り右岸の人っ子一人の道を御殿橋まで進みます。昔、藤沢御殿があった藤沢公民館の横をとおり、市民病院の前に出ます。白旗川沿いに小さな藤棚があります。

さて、白旗神社に着きました。社務所の前に白い藤の義経藤、その先に紫色の弁慶藤があります。弁慶藤の前には、芭蕉の句碑が立っています。

「草臥亭（くたびれて）宿かる 比や 藤の花」 文化二年（1805）江戸の俳人以足によって建てられたものです。くたびれましたか、小田急藤沢本町まで7分です。

（八柳 修之）